

島根県立
古代出雲歴史博物館
NEWS

2012.OCT vol.24

秋号

CONTENTS

2・3 企画展「戦国大名 尼子氏の興亡」特集

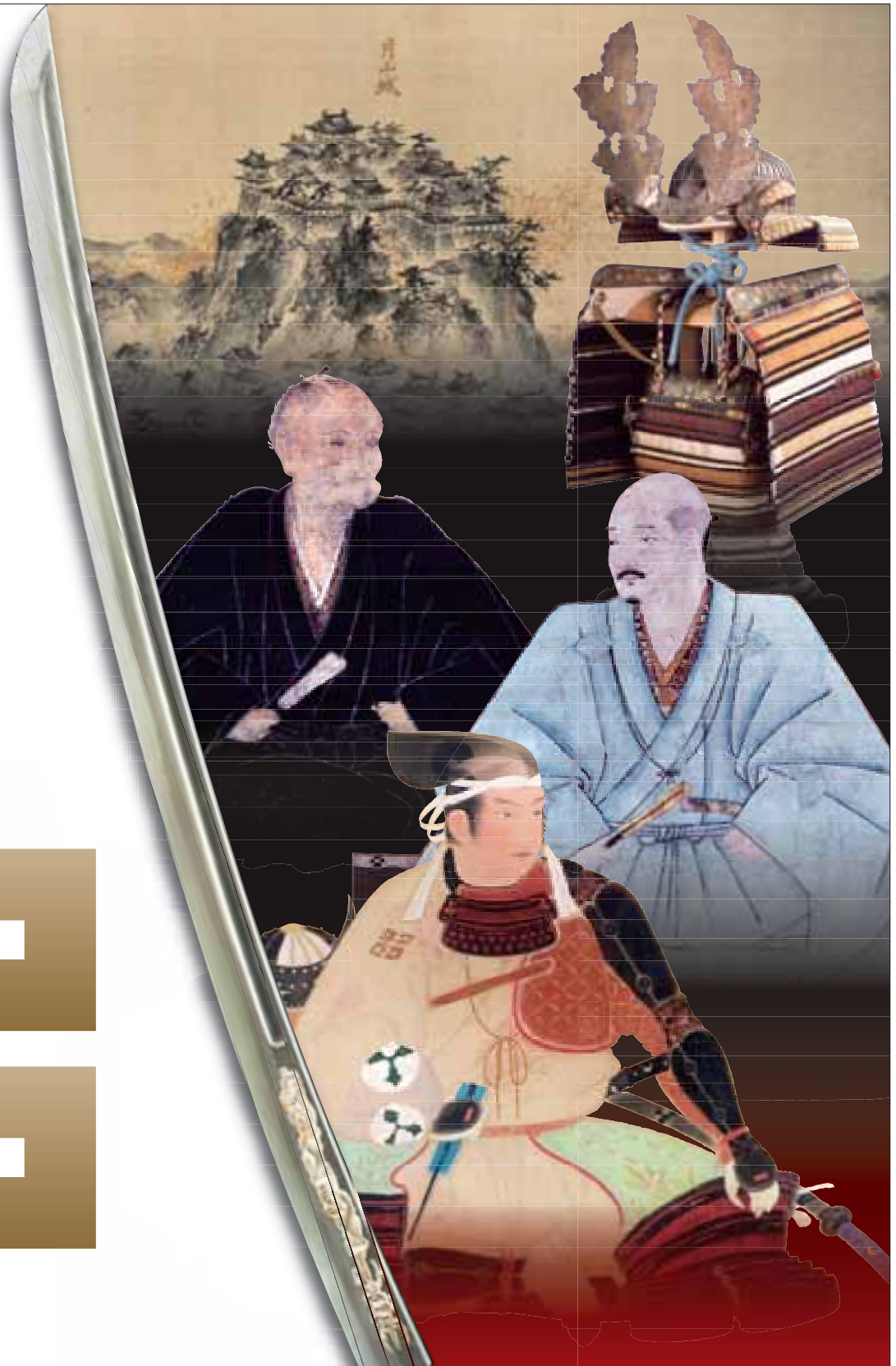
4 古事記1300年・出雲大社大遷宮 5 学芸員通信

6 博物館だより／まいぶんセンター通信

7 古代文化センターだより 8 れきはくごよみ

戦国大名
尼子氏の興亡

企画展 平成24年
10月26日〔金〕
—
12月24日〔月〕



戦国大名 尼子氏の興亡

今日でも出雲の人々の心をとらえてやまない戦国大名尼子氏の勃興から衰退・滅亡とその後について、東アジア経済や室町幕府との政治的関係の影響、大内・毛利氏などの近隣大名との関係を交えて展観します。

会期:平成24年10月26日(金)～12月24日(月) 開催場所:古代出雲歴史博物館 特別展示室

プロローグ。—尼子氏への憧憬—

尼子氏滅亡と出雲退去後も出雲の人々に強く刻印された在りし日の尼子氏への思いとはどのようなものであったか。

I. 経久以前 —そのルーツと勃興の前提—

尼子氏は出雲と同じ京極氏の領国であった近江の出自であった。応仁文明の乱では東軍に属した京極氏の出雲守護代として経久の父尼子清貞が、出雲国内の西軍勢力と対戦し、危機を乗り越える過程を見る。

II. 経久の登場と発展 —その苦闘と躍進—

尼子経久の人物像を紹介するとともに、出雲国内の平定や中国地方における広範な活躍を概観する。

III. 三大名と京・東アジア

大内・尼子氏や新興の毛利氏ら西国大名の領国は文化的・経済的にも京都・東アジアのインパクトを受けていたことを概観する。

IV. 晴久・義久の時代 —安定から衰退・滅亡へ—

経久の没後、孫の晴久の時代に尼子氏は安定期をむかえる。一方、毛利氏の発展の中で尼子氏は長期衰退を続け、毛利元就が主導し吉川元春を先鋒とした毛利勢の山陰進出により義久の代に滅亡するまでの動きを通観する。



尼子経久像

V. 尼子再興戦 —勝久と鹿介—

山中鹿介が尼子勝久を擁して出雲奪還をめざしたいわゆる尼子再興戦を中心に、播磨上月城の落城と再興軍の滅亡までを通観する。またその後、鹿介が称揚されていった過程を追う。

エピローグ。—その後の尼子氏—

尼子義久兄弟は、降伏後、いったんは毛利氏により幽閉された。しかし、関ヶ原の戦い後は萩藩から1292石の禄をもって遇せられ、子孫は本姓佐々木氏を名乗って存続したことを紹介する。

企画展「戦国大名尼子氏の興亡」から

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 佐伯 徳哉

本企画展では、尼子清貞、経久、晴久、義久と勝久にいたる尼子氏興亡の流れをご覧にいます。

能義郡を権力の地盤とするにすぎなかった尼子清貞は、応仁文明の乱で東軍方についた守護京極持清の守護代として、隣国の西軍方山名氏領国の動きに呼応した安来の松田氏や雲南の三沢氏らの反抗を押さえ、出雲国内を平定していきます。

その息子の経久(1458～1541年)は、清貞の政治的地盤を継承しますが、文明16(1484)年、寺社本所領押領をとがめられ室町幕府から追討命令をうけてしまいます。その後、しばらくは経久の動きはわかりませんが、永正5(1508)年には、守護京極氏から出雲国の事実上の支配権を継承し、その直後に杵築大社(出雲大社)の造営をひきうけます。そして10年以上にわたる造営事業を完遂し、経久は、出雲国の支配者としての実力を示すのです。しかし、この造営事業中にも、経久は雲南方面で三沢氏と対戦しなければならず、出雲西部の塩冶氏にも三男興久を入れて、これをようやく手中におさめるなど、国内平定に力を注がなければならませんでした。戦国大名として実力抜群と英雄視される経久も、実は、治世の前半期は、出雲国内の平定に腐心しなければならず苦労を重ねたのです。

しかし、それゆえでしょうか、経久の活動力と政治的パフォーマンスの巧さは抜群でした。例えば、1523年頃には石見沿岸を西に向かって兵を進める一方、南の安芸国鏡山を攻撃するなど迅速広範な軍事行動を展開します。またそのわずか1年前の1522年には、出雲大社の西の浜で、鰐淵寺・岩屋寺・清水寺など出雲国内の有力寺院や禅宗の僧侶1100人を集めて法華経万部を読む大規模な仏事を行うなど宗教的パフォーマンスを見せると同時に国内仏教勢力の集約をはかるなど、為政者として驚くような才幹を発揮するのです。



日御碕神社動化簿

◆ 企画展関連講座 ◆

第1回講座 10月27日(土) 13:00～

尼子氏の勢力拡大と中央政界

■講師 川岡 勉氏 (愛媛大学教授)

京都系土師器からみた尼子氏と西国の諸大名

■講師 古賀信幸氏 (山口市史編さん室長)

京都の室町幕府や山口の大内氏など、出雲国内外の諸勢力と尼子氏の関係を中心に、歴史の大きな流れのなかの尼子氏について考えます。

第2回講座 11月17日(土) 13:00～

15・16世紀山陰地域の流通経済と貿易

■講師 本多博之氏 (広島大学大学院教授)

富田城関連遺跡出土が語るもの

—富田川河床遺跡・新宮谷遺跡の陶磁器を中心として—

■講師 西尾克己氏 (前島根県古代文化センター長)

尼子氏が繁栄した時代は、同時に日本と中国・朝鮮半島との交流が活発化した時代でもありました。そうした尼子氏をとりまく東西の交流についてお話ししていただきます。

第3回講座 12月8日(土) 13:00～

尼子経久と出雲国内の諸勢力

■講師 長谷川博史氏 (島根大学教授)

山中鹿介と尼子家再興戦 (仮)

■講師 藤岡大拙氏 (荒神谷博物館館長)

尼子氏を語るうえで欠かせない存在ともいえる尼子経久と山中幸盛 (鹿介)。地元ゆかりの先生方に、この2人を中心に語っていただきます。



山中鹿介肖像画

【場所】 古代出雲歴史博物館講義室

【定員】 100名 ※事前の申し込みが必要です。

電話・FAX・ホームページの参加フォームにて受付。
定員となり次第、締切とさせていただきます。

ギャラリートーク

企画展担当学芸員による展示室内での解説です。

11月4日(日)・11月24日(土)・
12月15日(土)・12月22日(土)

いずれも11:00～/14:00～ 〈1日2回〉

事前申し込み不要
常設展観覧料もしくはパスポートが必要です。

尼子氏ゆかりの地かけめぐりツアー

11月3日(祝・土)

「みどころ」を知り尽くした達人とともに、尼子氏ゆかりの遺跡をめぐります。

(月山富田城・新宮党館跡・伝尼子晴久墓ほか)

◆ナビゲーター 舟木 聡氏(安来市教育委員会)

中野賢治(古代出雲歴史博物館学芸員)

※料金、コースの詳細はお問い合わせください。

ワークショップ 今回の企画展にも展示されている備前焼

備前焼にチャレンジ 第3弾!

器をつくらう



【日時】 12月2日(日) 9:30～12:00

【料金】 1,000円

【定員】 20名

【場所】 古代出雲歴史博物館 体験工房

【申込み】 電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームにて受付。定員となり次第、締切とさせていただきます。



古事記1300年・出雲大社大遷宮特別展 「出雲～聖地の至宝～」展への誘い

古代出雲歴史博物館 専門学芸員 森田 喜久男

今から38年前、1974年、僕が小学校6年生だった頃、フランスのルーブル美術館からレオナルド＝ダ＝ヴィンチのモナリザが日本にやって来ました。僕は、父に連れられて金沢発上野行の夜行列車「北陸」に乗り込みました。父は僕を東京国立博物館へ連れて行ったのです。僕は、モナリザよりも寝台車に乗れたことがうれしく、わくわくして眠れませんでした。上野に着くと、ただちに東博へ向いましたが、開館前からすでに長蛇の列、ようやく間近で見ることができたモナリザ。その謎めいた微笑は今も僕の心をとらえて離しません。当時、モナリザが展示されていたのは、東博の本館特別5室。その38年後に僕がこの展示室で「出雲～聖地の至宝～」を担当することになるとうちは夢にも思いませんでした。

高い天井と、バルコニーのある特別5室。それは宮殿の大広間のような。その荘厳な空間に並ぶのは、出雲大社にゆかりのある文化財です。言うまでもなく、出雲大社は『古事記』や『日本書紀』の国譲り神話に登場する日本で最も古い由緒を持つ神社ですが、今回は京都国立博物館での「大出雲展」に続き、出雲大社境内遺跡出土の巨大な字豆柱や古代の出雲大社本殿の10分の1サイズの復元模型、さらには国宝秋野鹿蒔絵手箱や後醍醐天皇が出雲大社にあてた綸旨と呼ばれる文書、千家国造家や北島国造家に伝わった絵図や屏風などが並びます。これらの作品を見ていくことで、出雲大社の歴史が自然と頭に入ります。

それだけではありません。『古事記』写本のうちで、京博で展示した真福寺本に匹敵する古い書写年代を持つ道果本や島根県指定文化財である日御碕神社所蔵の『出雲国風土記』の古写本も並びます。これは徳川御三家の筆頭、尾張徳川家の初代藩主徳川義直が日御碕神社に奉納したものです。

これら出雲大社や古代出雲にゆかりのある歴史美術品が並ぶことで特別5室は、どのような空間になるのか。おそらく、とても神々しい空間になることでしょう。

さて特別5室の隣の特別4室では、島根の至宝を展示します。大量の青銅器の出土で全国を驚かせた荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡の国宝青銅器のうちから、79点の作品を精選し製作当初の光り輝く様子がわかる復元模造品と共に展示します。「出雲国」という国名が見える最古の銘文を持つ7世紀の鰐淵寺の観音菩薩立像、成相寺、清水寺、赤穴八幡宮の神像や戦国大名尼子氏が奉納したと伝えられる佐太神社の甲冑、須佐神社の太刀など島根の社寺に伝わった名宝の数々を御紹介いたします。

旧暦10月は神在月。全国から神々が出雲へ集いますが、今年はどうでしょうか。その頃、神々へ奉られた御神宝が、東博へ集結します。今年の秋、八百万の神々は出雲だけでなく上野の森に降臨されるのです。皆さん、今年は、上野で神々にお会いしませんか。

古事記1300年出雲大社大遷宮 特別展

出雲～聖地の至宝～

【会期】平成24年10月10日(水)～11月25日(日)

【会場】東京国立博物館 本館特別5・4室
(東京都台東区上野公園13-9)

(主催) 東京国立博物館、島根県、島根県立古代出雲歴史博物館、NHK、
NHKプロモーション、読売新聞
(特別協力) 出雲大社、島根県神社庁

展覧会公式ホームページ <http://izumo2012.jp>
お問合せ 03-5777-8600



縁の下の力持ち -加茂岩倉銅鐸安定台-

古代出雲歴史博物館 学芸員 澤田 正 明

文化財を展示するという事は、皆様に見ていただく素晴らしい機会となります。しかし、この素晴らしい機会も、安全に保管するという点では様々な問題を抱えているのです。

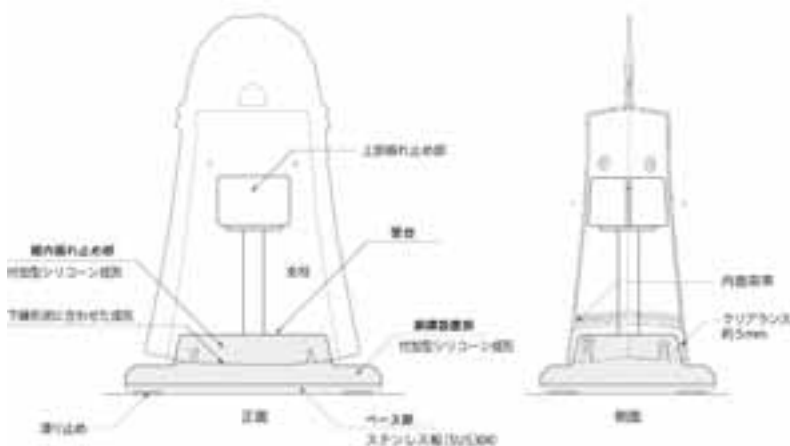
当館では、加茂岩倉遺跡から出土した銅鐸39個（国宝）を「保管展示」として公開していますが、銅鐸は金属ですから、保存修理を終えているとはいえ、適切な環境で保管しなければ、錆が進行してしまいます。そのため、展示室は温湿度を管理しており、展示ケースは密閉できて外気の影響を受けにくい構造になっています。これで保管環境は整いました。しかし不測の事態では、どうでしょう？もし地震が起きた時に、ただ置いてあるだけの展示では、揺れによって転倒、衝突は避けられません。そこで、より安全な「保管展示」を行うための「安定台」を作りました。一般に展示台、演示具と呼ばれていますが、独特の形状である銅鐸の展示姿勢を保持する演示具としての役割に加え、銅鐸との接触する部分は、荷重・震動に対する緩衝材の効果を持ち、長期にわたる設置においても文化財に影響を与えない保管台でもあることから、私たちは「安定台」と呼ぶことにしました。

39個の銅鐸の形は全て違います。これらを安定した姿勢で保持させるには、設置する面を銅鐸の裾部分の形状に合わせなければなりません。通常、こうした安定台を作るときは、本物の型を取ることが多いのですが、今回は貴重で、弱い部分が多い銅鐸のため、型取りができません。そこで複製文化財を型取りしてプラスチックの元型を作ります。この元型に盛ったり削ったりしながら、本物との微調整を繰り返しました。調整が済んだプラスチックの元型をシリコン樹脂に置き換えて、乗せる部品が完成です。このシリコン樹脂は、文化財に対して影響がないものを使っています。

この安定台を作ることが決まった直後に東日本大震災が起きました。博物館でも地震への対策がいつそう注目されるようになったのです。前述した部品だけでは、転倒への対策がありません。そこで、内部に立てたステンレスの支柱に取り付けたシリコン樹脂のブロックが、揺れた銅鐸を支える構造にしました。ただし、このシリコン樹脂のブロックに一工夫してあります。加茂岩倉銅鐸は、工事中の重機が発見した際に割ってしまったものを復元している銅鐸があります。普通のブロックでは硬すぎて、当たった衝撃で壊れてしまう恐れがあります。

衝撃を和らげるため、シリコン樹脂を固める時にスチロール球（発泡スチロールの圧縮成型前のもの）を埋め込んでおきます。固まった後に、このスチロール球の1個1個に溶剤を注射器で流し込み、溶かしていくのです。こうしてできた内部が気泡状のシリコン樹脂のブロックは、適度な柔らかさで銅鐸を守ってくれます。

博物館では展示品が主役です。しかし、主役を美しく見せ、安全に保管し、もしもの時に力を発揮する安定台は、まさに縁の下の力持ちなのです。



Facebook始めました

古代出雲歴史博物館では、従来のホームページによる情報発信に加え、こまやかな情報提供、お客様からの意見の収集、業務改善の促進などを目的として、Facebookでの情報発信を始めました。

古代出雲歴史博物館Facebookページでは、マスコットキャラクターの雲太くん・出雲ちゃんに加え館内のいろいろな担当が、ホームページに載らないような日頃の出来事、季節の話題などを投稿しています。

写真なども入れてわかりやすく楽しく盛り上げていきたいと思いますので、ぜひご覧いただき、たくさん「いいね」をつけてくださいね。



※Facebook（フェイスブック）とは？

Facebookとは、実名で現実の知り合いとインターネット上でつながり、交流をするサービスです。Facebookの利用には、最初に個人での登録が必要となります。

古代出雲歴史博物館Facebookページはこちら

<http://www.facebook.com/rekihaku>

[まいぶんセンター通信]

島根県埋蔵文化財調査センター

うお み づか 松江市魚見塚古墳の発掘調査 ～出雲東部最大級の前方後円墳の実態に迫る～

島根県内には7,000基以上の古墳が存在すると考えられています。このうち、造られた年代や墳丘の正確な形、規模がわかっている古墳は一部で、有名な古墳でも詳しい情報がわかっていないものがたくさんあります。埋蔵文化財調査センターでは、地域の歴史を考えるうえで重要な古墳の実態を解明するために、平成8年度から毎年古代文化センターと共同で県内各地の主要古墳の測量調査や発掘調査を行っています。平成24年度からは、松江市朝酌町に所在する魚見塚古墳を発掘調査することになりました。

魚見塚古墳は出雲地方でも屈指の規模を誇る全長約62mの前方後円墳で、これまで発掘調査が行われたことはありません。今年度は、次年度以降の本格的な調査に備え、2か所にトレンチ（細長い溝状の調査区）を設定して、6～7月に調査を行いました。発掘調査の成果は以下のとおりです。

- ①大型の前方後円墳であるにも関わらず、葺石や埴輪、古墳の周囲をめぐる周溝が存在しない。
- ②古墳の下段はもとあった山を削って形を整え、上段は削った土を盛っていた。
- ③埴輪のかわりに出雲型子持壺と呼ばれる特殊な土器が多数墳丘に立てられていた可能性が高い。
- ④出土した土器から、古墳の造られた年代は6世紀後半頃と考えられる。



古墳の裾から「出雲型子持壺」と呼ばれる土器がまとめて出土しました。

今回の調査で、これまでわからなかった築造年代や、葺石・埴輪や周溝が無いことなど、この地域の古墳を研究するうえで貴重な情報が得られました。魚見塚古墳の発掘調査は今後も継続して行う予定です。ご期待ください。



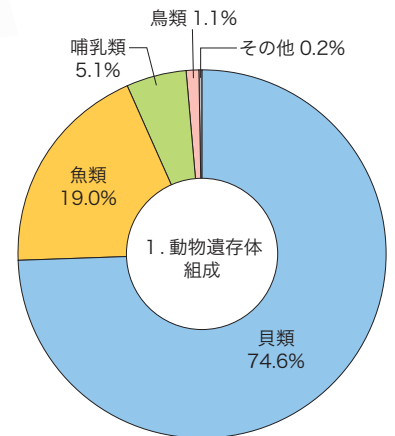
出雲型子持壺
(松江市団原古墳出土)

縄文時代の食糧と漁・狩猟の方法

古代文化センター 専門研究員 柳 浦 俊 一

古代文化センターのテーマ研究「縄文時代における山陰地域社会の展開」では、当時山陰地方に住んだ人々が何を食べていたのか、という問題にも取り組みました。

松江市美保関町・小浜洞穴遺跡（約4,500～3,700年前）や、同市鹿島町佐太講武貝塚（約5,500年前）では、土器・石器とともにたくさんの魚骨・貝殻・動物骨（動物遺存体）が出土しています。これらは、縄文時代の人々の「食べカス（食糧残滓）」と考えられます。小浜洞穴遺跡は境水道に面した遺跡で、現在でも豊富な魚介類が生息しています。貝類は全体の75%、魚類は19%を占め、ここに住んだ人々が海産物に大きく依存していたことがわかります（第1図）。魚はスズキ・クロダイ・フグを初めとして沿岸魚が94%で、多くは居住地近隣で捕獲していたことがうかがえます。貝類はウミニナ・スガイなど小型巻貝を中心に、サザエ・アワビ・アカニシなどの大型巻貝も食べていたようです（第2図 第3図）。



第1図 小浜洞穴遺跡の動物遺存体組成



第2図 小浜洞穴出土獣骨・魚骨
(1.イノシシ 2・3.フグ 4.マダイ)



第3図 小浜洞穴出土貝類
(1.サザエ 2.アカニシ)
殻体には、両者とも人為的に大きく穴が開けられている

佐太講武貝塚では、淡水・汽水性のコイ・フナ・ナマズ、ヤマトシジミが大部分を占め、当時ここが淡水に近い湖だったことがうかがえます。サザエなど海産の魚介類も出土していますが、量的には少なく、ここでも住居の近くで食糧を調達していたと考えられます。

動きの鈍い貝類はともかく、活発に動き回る魚を、人々はどのように獲っていたのでしょうか。魚といえば、釣りがまず頭に浮かびますが、山陰地方で確実に縄文時代の釣り針といえるのは小浜洞穴遺跡から出土した1点だけです。それに対して、網の錘と考えられる石錘は各遺跡からたくさん出土していますので、漁はおもに網が使われていたと考えられます。飯南町五明田遺跡や奥出雲町林原遺跡では、石錘10個前後がまとまって出土しました。これは当時の網の痕跡と思われ、一つの網に10～15個の石錘が装着されたと推定されます。仮に50cm間隔で石錘が配置されたとすれば、網の長さは5～7m前後ということになります。

このほかに、骨製のヤスが各地で出土しており、沿岸部での突き漁が盛んだったことがわかります。ヤスはおもにシカの中足骨・中手骨（人間でいえば手足の甲の骨）を使って作られています（第4図）。

陸棲の動物は、イノシシ・シカがおもな狩猟獣だったようで、これらは動物遺存体が出土する遺跡ではもっともポピュラーな種類です。狩りの道具は、現在では弓矢

しか残っていませんが、シカ・イノシシは大型の哺乳類で、弓矢だけで狩りが成功したのか疑問です。トリカブトなどの毒を塗り付けた可能性があります。

大山山麓を中心に、落とし穴がたくさん作られています。しかし、これは深さ1m程度の小規模なもので、仕掛けただけなら獲物が逃げてしまうように思われます。落とし穴を仕掛けただけで、さらに別の方法で仕留めたのかもしれない。

縄文人は、このほかにもドングリやトチの実などの植物も多く食していました。動物資源よりも植物資源が主要な食糧だったといわれています。木の実落下時に多くを収穫し、貯蔵穴で保管をしていました。出雲市三田谷遺跡や松江市九日田遺跡などでは、穴の底に残りのドングリが残っていた例は多くみられます。



第4図 小浜洞穴出土ヤス
(1・2.素材 3.完成品)
1・2はシカ中手骨

企画展 スケジュール 2012-2013

企画展

「戦国大名 尼子氏の興亡」

平成24年10月26日(金)～12月24日(月・祝)

企画展開催中の休館日：11月20日・12月18日

詳しくは2ページをご覧ください。

企画展

「匠の技」

—弥生木製品から出雲大社まで—

平成25年1月18日(金)
～3月17日(日)

企画展開催中の休館日：2月19日



特別展

平成の大遷宮 「出雲大社展」

平成25年4月12日(金)～6月16日(日)

特別展開催中の休館日(予定)：4月16日・5月21日

「平成の大遷宮」にあわせ開催するこの特別展では、出雲大社の御神宝をはじめ、考古資料や古文書など様々な文化財とともに、由緒ある諸社に伝えられてきた神道美術の精華を一堂に展覽します。

巡回展

古事記1300年・出雲大社大遷宮特別企画

◆東京国立博物館 本館特別5・4室

特別展 出雲 —聖地の至宝—

神話の国、出雲。

荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡で発見された大量の青銅器や、出雲大社のそびえたつ社殿の姿は私たちが神話の世界に誘います。

今年はお出雲ゆかりの神話が記された「古事記」が編纂されて1300年の記念の年にあたり、来年は出雲大社の大遷宮が60年ぶりにおこなわれます。本展覧会では、出雲大社の境内から出土した重要文化財の宇豆柱をはじめ、国宝の銅剣・銅鐸、甲冑や刀剣、神像などの貴重な文化財を通し、聖地、出雲をご紹介します。詳しくは4ページをご覧ください。



【行事・イベント】

10月14日(金)	「銅鐸記念日」
11月18日(日)	「しまね家庭の日」 アテンド企画のイベント実施
11月23日(金・祝)・ 24日(土)・25日(日)	神在週間 パスポートWポイントサービス
12月16日(日)	「しまね家庭の日」 アテンド企画のイベント実施



神々の国しまねプロジェクト——古代出雲歴史博物館

「常設展」も「特別展」も「県外展」も盛況です。

古代出雲の至宝

八雲立つ出雲

大出雲展

◆8月3日(金) 歴博入館者150万人達成！

開館以来の入館者数が150万人となり、エントランスホールにてセレモニーを開催しました。140万人から最短日数の達成となりました。

◆9月10日(月)〈特別展〉写真展「八雲立つ出雲」 入場者5万人達成 セレモニー開催！

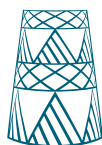
開幕から51日目(開催期間78日間)で5万人を達成しました、5万人を超える入場者は平成19年の特別展「銀山展」以来となりました。最終入場者数は次号で報告いたします。

◆京都国立博物館 特別展覧会「大出雲展」

7月28日～9月9日の会期中、予想を大きく超える79,218人のお客様に展示をご覧いただきました。暑期中、足を運んでいただきありがとうございました。



発行／平成24年10月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL: <http://www.izm.ed.jp> E-mail: contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん